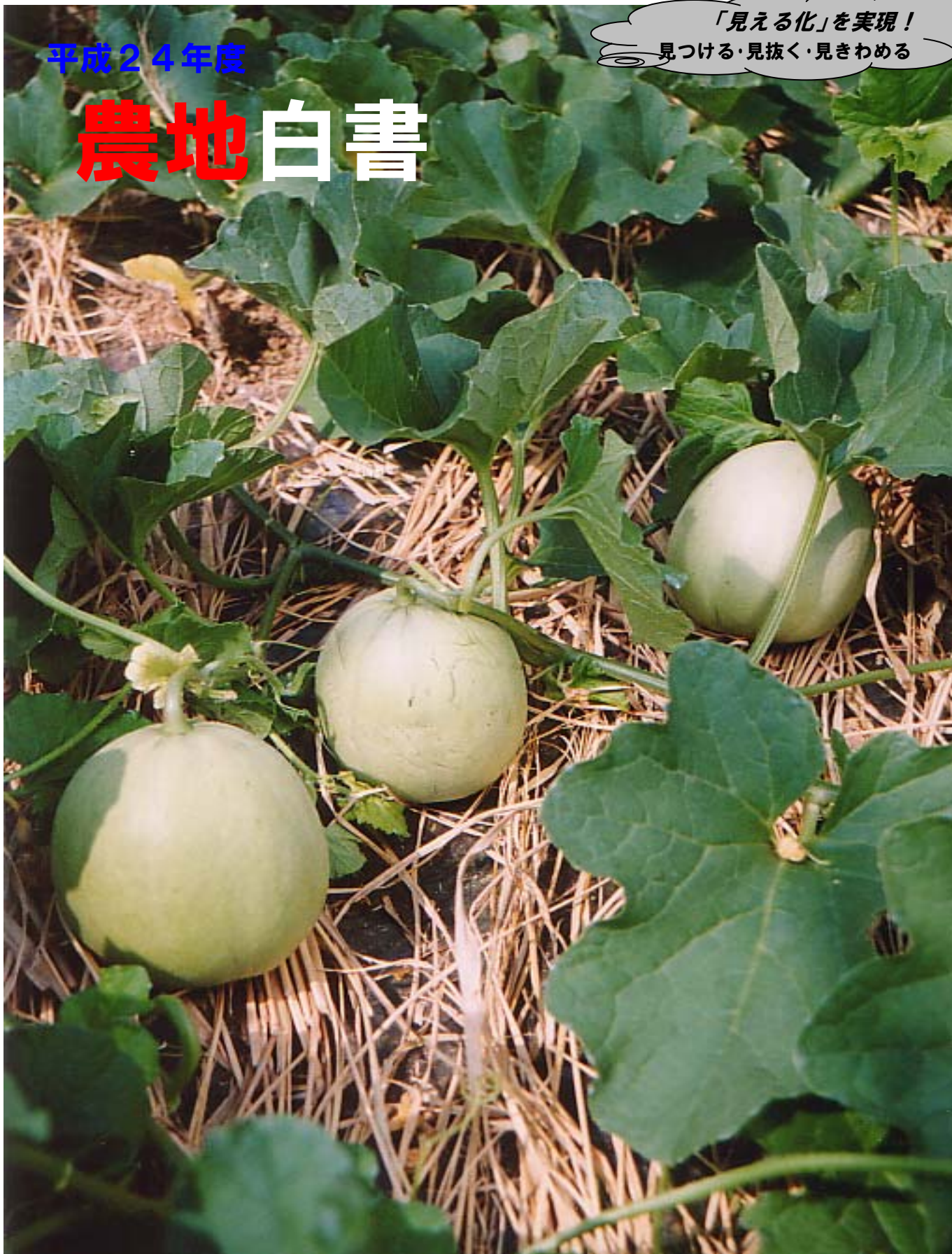


平成24年度

農地白書

「見える化」を実現！
見つける・見抜く・見きわめる



表紙写真

編集・発行 倉吉市農業委員会

倉吉市を代表する農産物
プリンスメロン

農地白書の発刊に当たって

「農地白書」は、“農地を守り活かす全県運動”を立ち上げ、心耕す平成の農地改革とし、農地は、地域における「限られた貴重な資源」であり、かつ、生命と暮らしを守る「農業生産の基盤」である。

いま、農業は高齢化や担い手不足等が進行し「このままでは、農地は荒廃し、地域や集落は崩壊してしまうのではないか」という危機に直面している。さらに、農業者の世代交代や関係機関・団体の広域化が進行している。

そこで、農地に係る諸課題を様々な角度からありのままを見つけるとともに、農声をより広く把握・発信するため「農地白書」を刊行することとした。

本書が農業者の活動のさらなる取組みと関係機関・団体の連携強化等にお役にたてれば幸いである。

平成25年3月

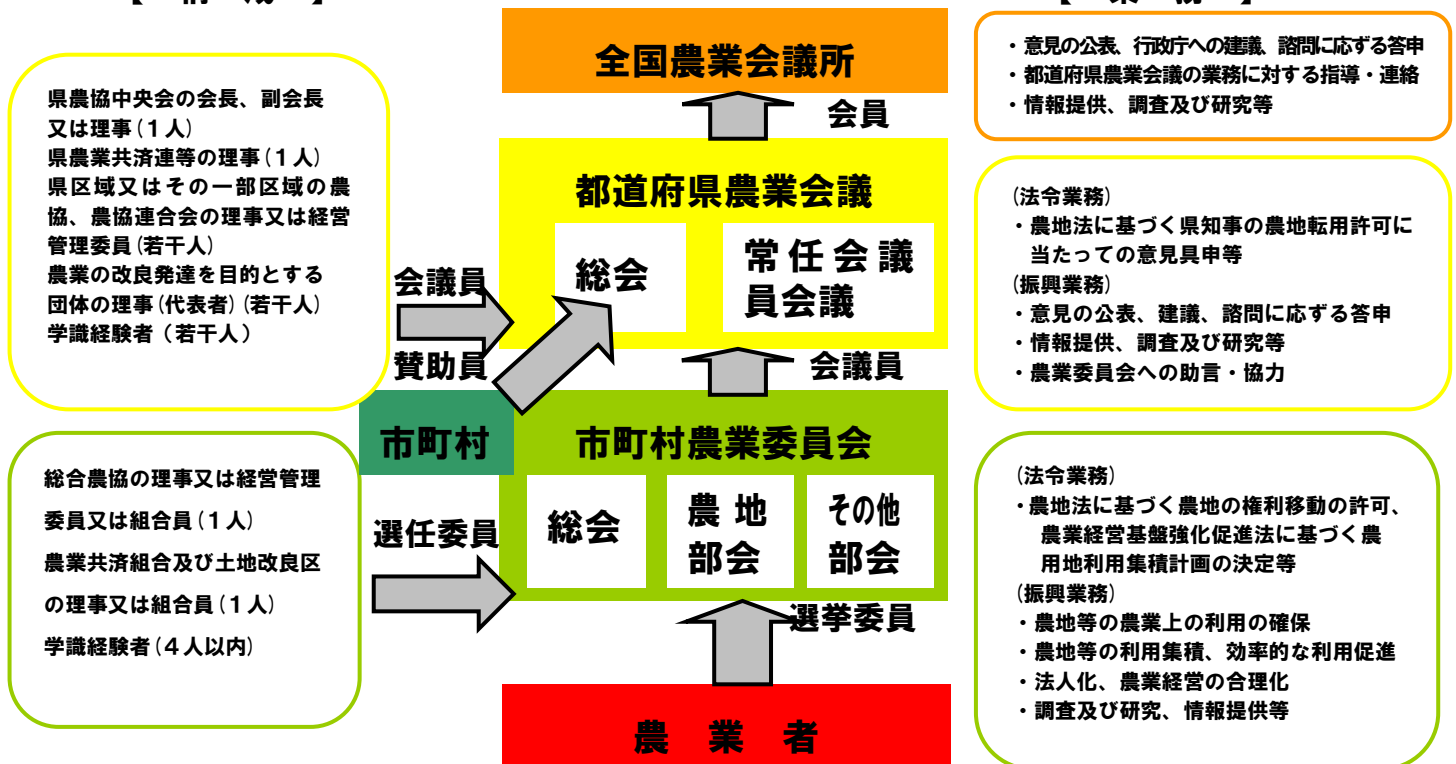
倉吉市農業委員会

会長 山脇 優

農業委員会系統組織の体系

【構成】

【業務】



市町村農業委員会の概要 (赤字は農地白書作成の根拠)

根拠法	農業委員会等に関する法律 (昭和26年制定)	役割(所掌業務)	①農地法等規定に基づく許認可に係る事務処理 ◆農地法及びその他の法令によりその権限に属された農地等の利用関係の調整に関する事項 ◆農業経営基盤強化促進法等 ②地域農業振興を図る促進業務(農業振興業務) ◆農地等の確保、利用集積等の効率的な利用促進に関する事項 ◆法人化その他農業経営の合理化に関する事項 ◆生産・経営・生活に関する調査研究と情報提供 ③農業・農業者に関する意見の公表、建議及び答申 ◆農業・農民に関する事項について意見の公表、建議及び諮問に応じて答申
組織	市町村に設置されている行政機関(選挙・選任委員で構成する合議体の行政委員会)		
構成	農業委員定数32人(平成23年7月定) (うち選挙委員25人、選任委員7人)		

目

次

農地白書の発刊に当たって（表紙の内面）

農業委員会系統組織の体系

市町村農業委員会・農業会議の概要

第1部【基本編】農地の基本的価値 1

◆①「食料供給」機能

図1 農業産出額の推移

◆②「就業創出」機能

図2 農業就業人口の推移と割合

◆③「環境保全」機能

図3 多面的機能の貨幣評価

第2部【農地編】農地基盤・利用の姿 2

◆①遊休農地実態と発生要因

図4 遊休農地の区分別面積と割合の推移

図5 農家類型別遊休農地面積の推移

図6 遊休農地の要因分析

◆②農地の立地条件 3

図7 農業地域類型別の面積割合

図8 農地整備の状況

図9 農地筆数及び1筆平均面積

◆③農地面積の推移と利用整備計画等の状況 4

図10 農地面積の推移

図11 農業振興地域内農用地区域の設定状況

図12 中山間直接支払い対象面積と協定数

◆④農地の利用状況 5

図13 営農類型別農地利用面積と農地利用率の推移

◆⑤農地の貸借状況 5

図14 農地貸借の推移(累積)

図15 農地賃借料の状況

図16 遊休農地解消後の利用状況

図17 解消事業の実施状況

◆⑥農地転用の状況 7

図18-1 農地転用面積の推移

図18-2 農地転用面積の内訳

図19 水張り水田(保全)の状況

第3部【労働編】農業就労(人)の姿 8

◆①農業就業者の状況

図20 類型別農家の推移

図21 基幹的農業従事者数の推移

図22 農業者の男女別年齢別構成割合

◆②就農の状況 9

図23 新規就農者の推移

図24 認定農業者の推移

図25 農業法人等の推移

第4部【組織編】

関係機関・団体の役割分担 10

◆①農業委員会の状況

図26 農業委員数の推移

図27 女性農業委員数と割合の推移

図28 事務局職員数の推移

◆②関係機関等との連携 11

図29 平成24年度農地パトロールの農業委員等実施人数

第5部【特集編】 12

農業委員会系統組織活動の実績

1 市町村農業委員会の主な建議事項

2 プロジェクト活動等の概要

3 農政活動トピックス

〈付〉

用語解説

農業委員名簿

市町村の風土

14

(裏表紙の内面)

(裏表紙)

第1部
基本編

農地の基本的価値

～「食料供給・就業創出・環境保全（3機能）」の発揮～

①「食料供給」機能

②「就業創出」機能

③「環境保全」機能

図1 農業産出額の推移
～各部門の均衡が崩れ産出額は低下傾向～

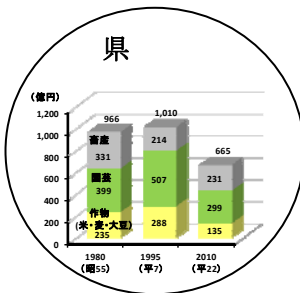


図2 農業就業人口の推移と割合
～減少に歯止めかからず～

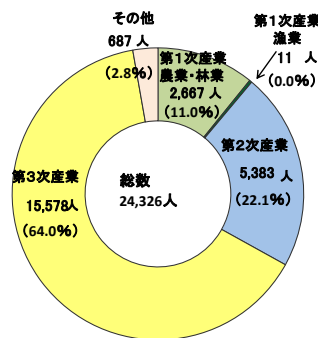
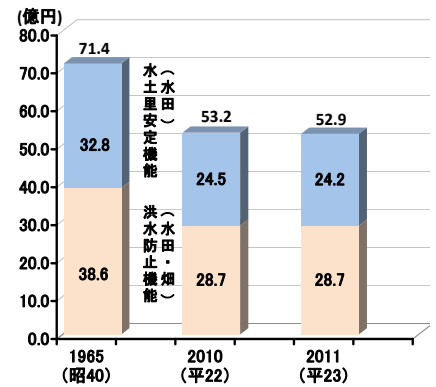
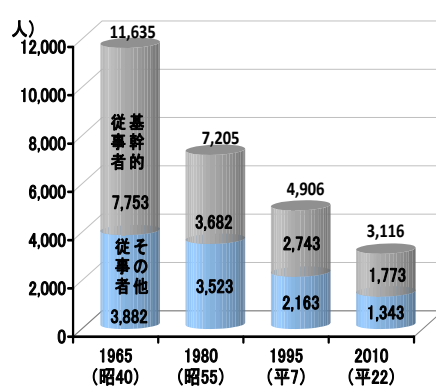
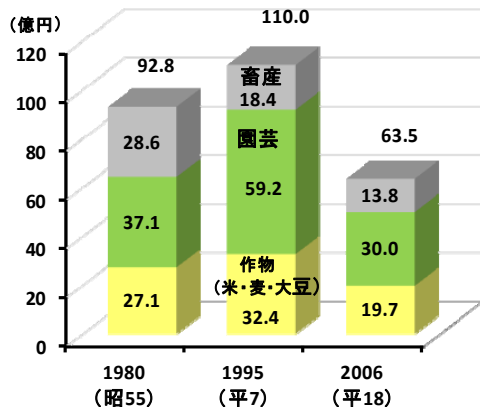
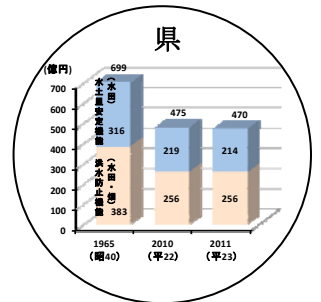


図3 多面的機能の貨幣評価
～評価額は52.9億円～



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

資料：農林水産省「農林業センサス」

資料：日本学術会議、(株)三菱総合研究所「農業の多面的機能の貨幣価値」(平成13年)を基に、市町村

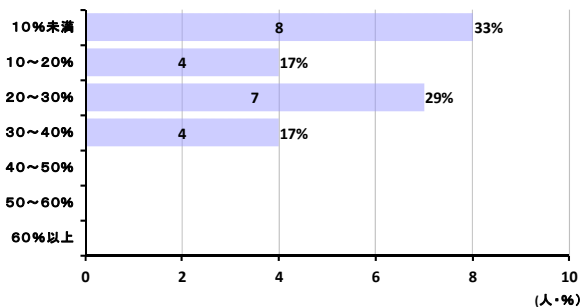
(注1) 農業就業人口：農業のみに従事した者又は農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数の方が多し者

内耕地面積に換算したもの。(詳しくは、用語解説 頁参照)

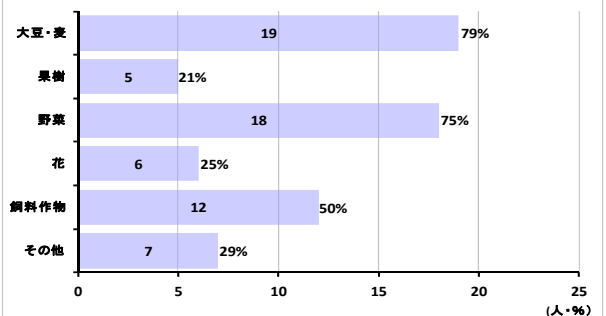
(注2) 基幹的農業従事者数：農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事为主」の者

農業委員アンケート結果

【質問1】 水田(水張り)を維持拡大するため、転作率はどの程度を理想と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問2】 あなたの市町村で、今後、主食米(加工用米・備蓄米含む)以外で振興すべき作物は何だと考えますか。3つ選んで○をつけて下さい。



第2部
農地編

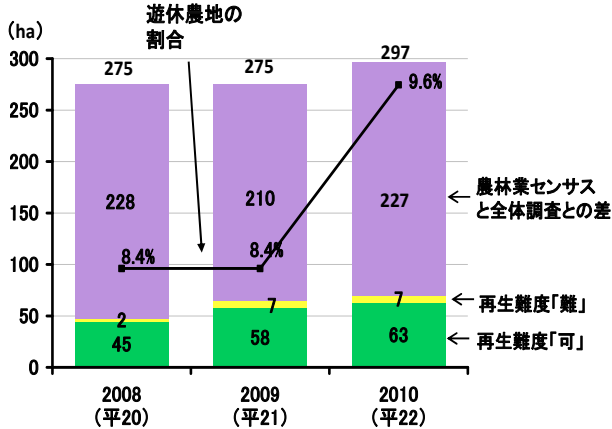
農地基盤及び利用の姿

～農地の確保「遊休農地対策」と農地利用集積の促進～

① 遊休農地実態と発生要因

図4 遊休農地の区分別面積と割合の推移

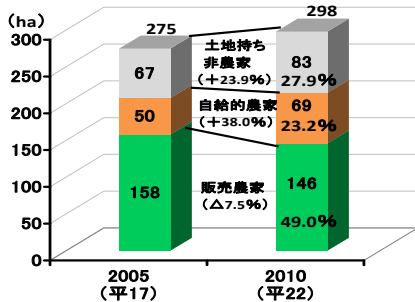
～遊休農地率は9.6%に増加～



資料：合計面積は農林水産省「農林業センサス」
区分別は農業委員会パトロール結果による
(注) 遊休農地の割合は、
耕作放棄面積 ÷ (経営耕地面積 + 耕作放棄面積) × 100

図5 農家類型別遊休農地面積の推移

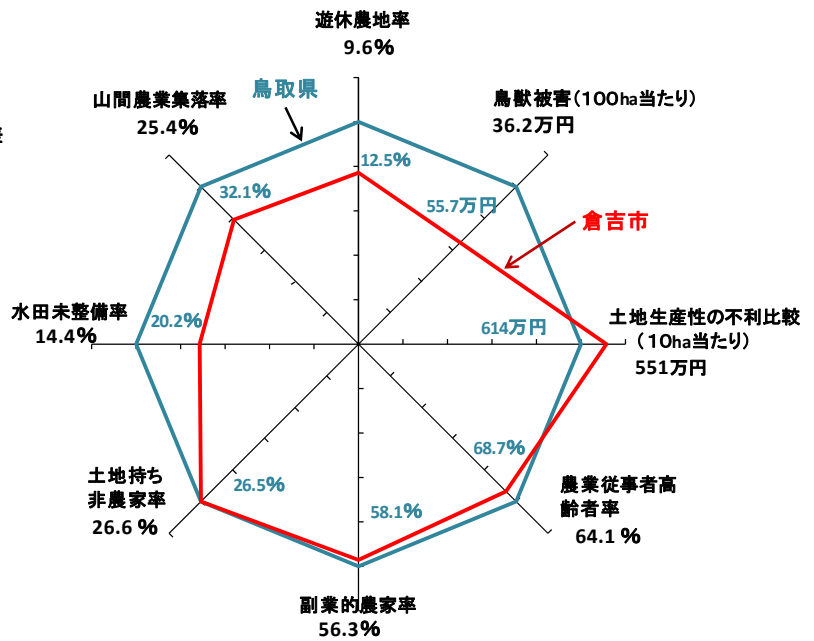
～土地持ち非農家・自給農家で増加～



資料：農林水産省「農林業センサス」
(注) センサスの耕作放棄地を遊休農地と表現

図6 遊休農地の要因分析

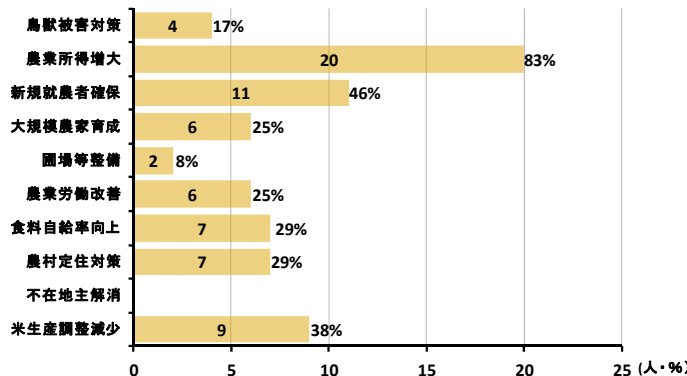
～土地生産性が低いほど遊休農地化～



資料：各数値は各種データに基づき算定(用語解説参照のこと)

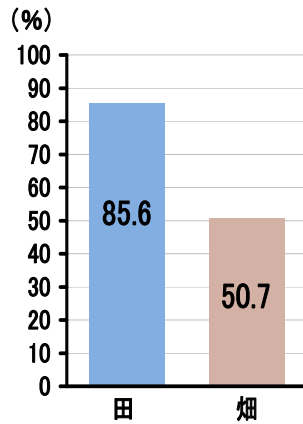
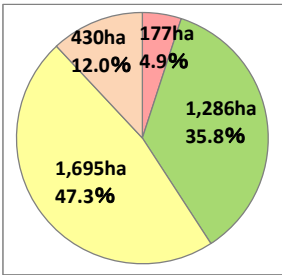
農業委員アンケート結果

【質問3】 遊休農地の発生には、さまざまな要因があります。解決に必要な対策は何だと思いますか。3つ選んで○をつけて下さい。

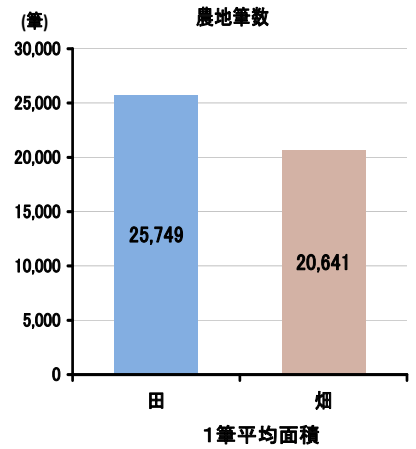


② 農地の立地条件

図7 農業地域類型別の面積割合 図8 農地整備の状況 図9 農地筆数及び1筆平均面積
 ～中・山間地域が全体の59.3%～ ～田・畑とも全国的に高い整備率～ ～1筆ごとの平均面積は狭小～



資料：県農地・水保全課調べ



資料：農業委員会調べ

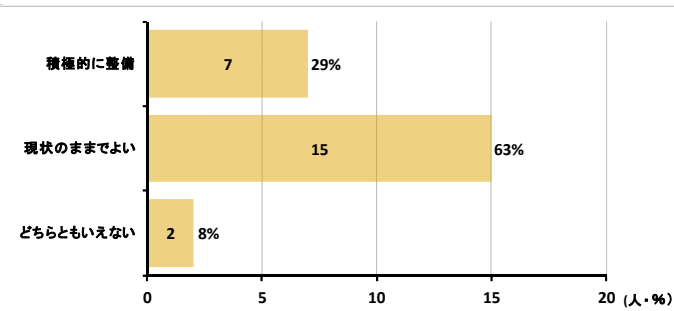
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス農山村地域調査（農業集落）」

(注) 農業地域類型基準指標

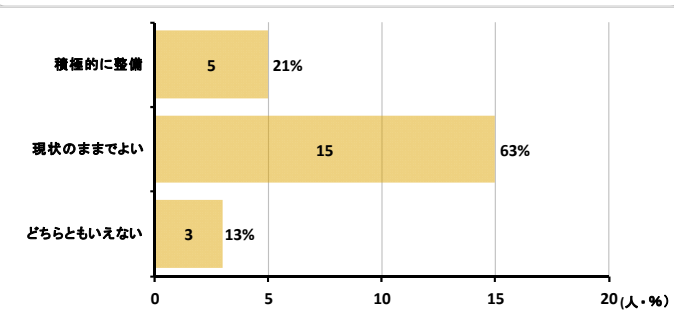
- 都市的地域＝人口密度500人以上及び宅地等/可住地面＝60%以上
- 平地農業地域＝耕地率20%以上かつ林野率50%未満
- 中間農業地域＝耕地率20%未満
- 山間農業地域＝耕地率10%未満かつ林野率80%以上

農業委員アンケート結果

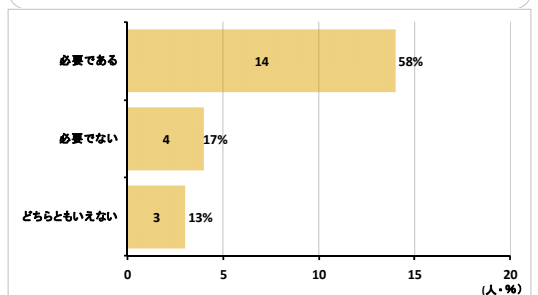
【質問4】農地の区画整備は、今後いかにあるべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。(水田について)



(畑について)



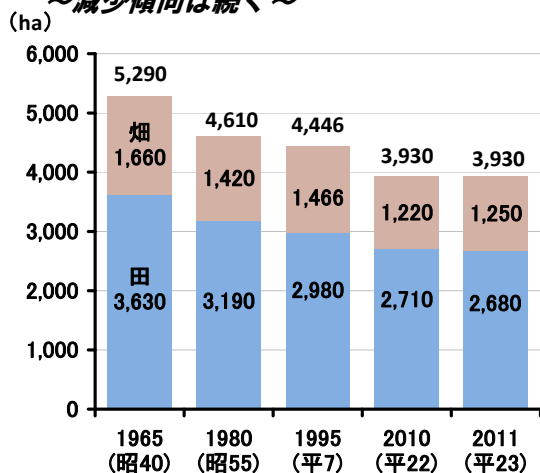
【質問5】下限面積は、自然的・経済的自然条件からみて営農条件が同一と認められる地域で農家の経営規模及び農業振興計画等を考慮して定められていますが、下限面積の設定が必要ですかその必要性についてお聞かせ下さい。1つ選んで○をつけて下さい。



③ 農地面積の推移と利用整備計画等の状況

図10 農地面積の推移

～減少傾向は続く～



資料：農林水産省「耕地面積調査」

ラウンドで合計が一致しない場合がある

図12 中山間直接支払い対象面積と協定数

～中山間地域の集落維持に必要不可欠～

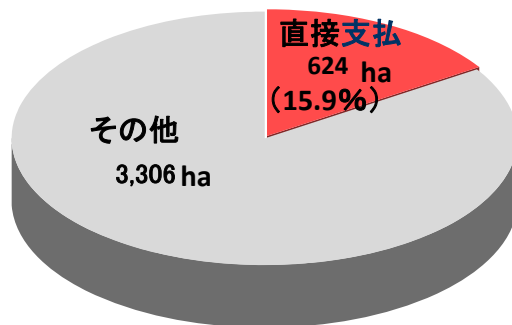
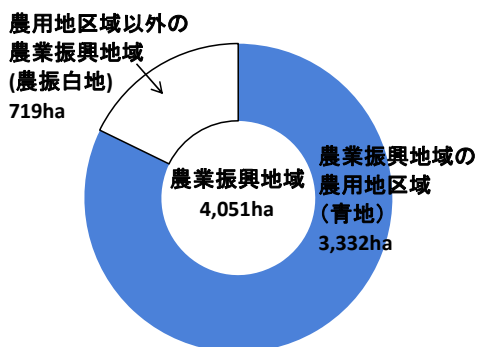
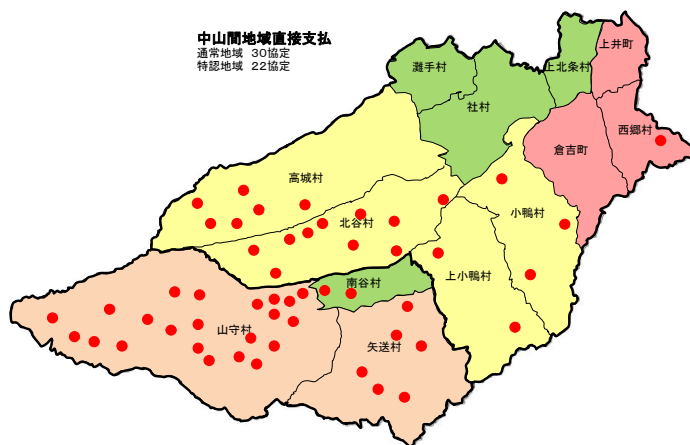


図11 農業振興地域内農用地区域の設定状況

～求められる農地の総量確保～



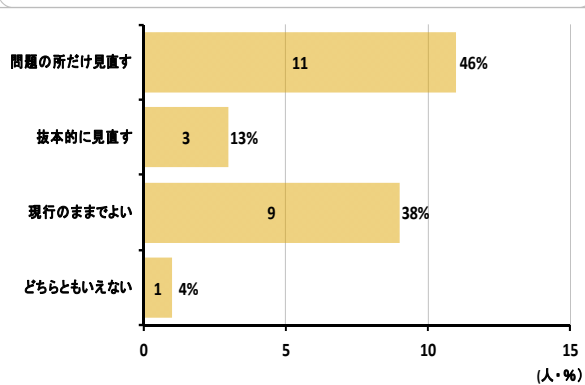
資料：県経営支援課調べ



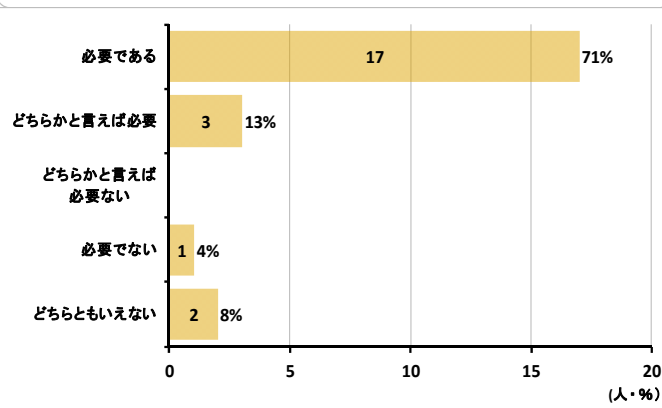
資料：県農地・水保全課調べ

農業委員アンケート結果

【質問6】優良農地を確保するため、農業振興地域が設定されています。農業振興地域のあり方について農業委員会の農地行政を進めるうえでどのように考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



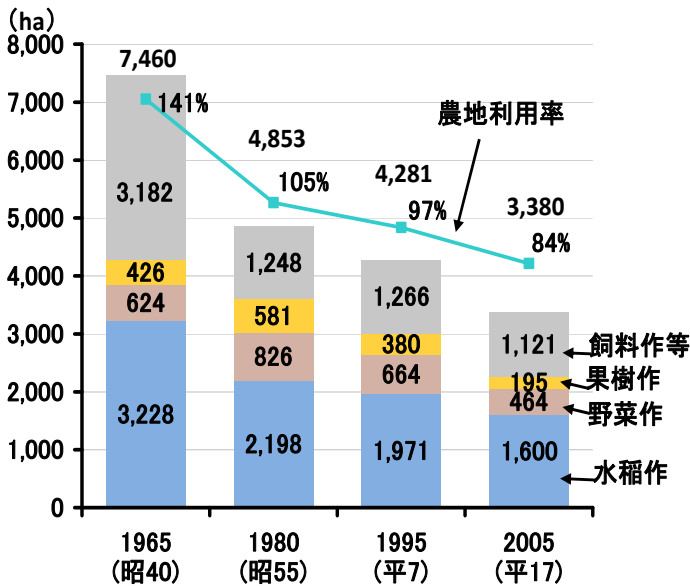
【質問7】中山間地直接支払制度がありますが、今後どのように考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



④ 農地の利用状況

図 1 3 営農類型別農地利用面積と農地利用率の推移

～100%を下回る異常事態 84%まで低下～



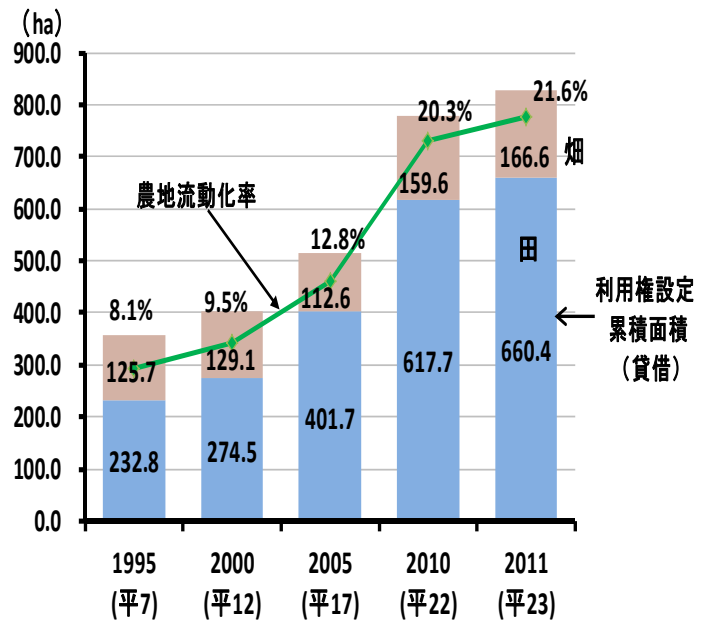
資料：農林水産省「耕地及び作付け面積統計」

(注) 利用率は、作付(栽培)延べ面積÷耕地面積×100

⑤ 農地の貸借状況

図 1 4 農地貸借の推移(累積)

～農地流動化率は 21.6%まで増加～

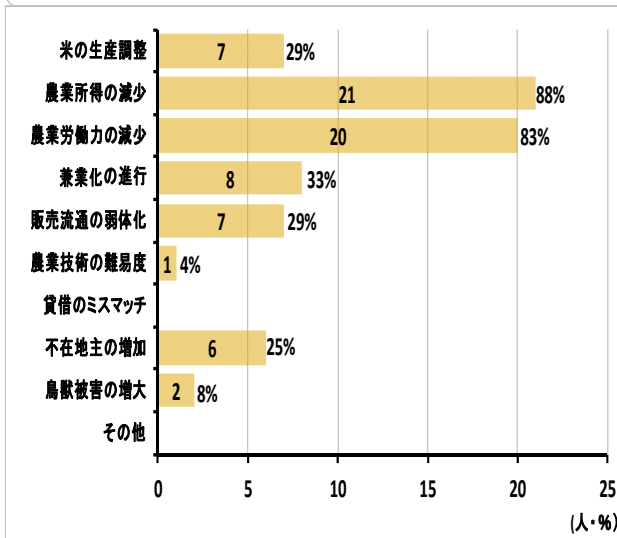


資料：農林水産省「農地面積調査」

「利用権設定面積」は農業会議調べ

農業委員アンケート結果

【質問8】農地利用率が下がっている主な理由は何だと思いますか。3つ選んで○をつけて下さい。



【質問9】農地流動化が進まない理由は何だと思いますか。3つ選んで○をつけて下さい。

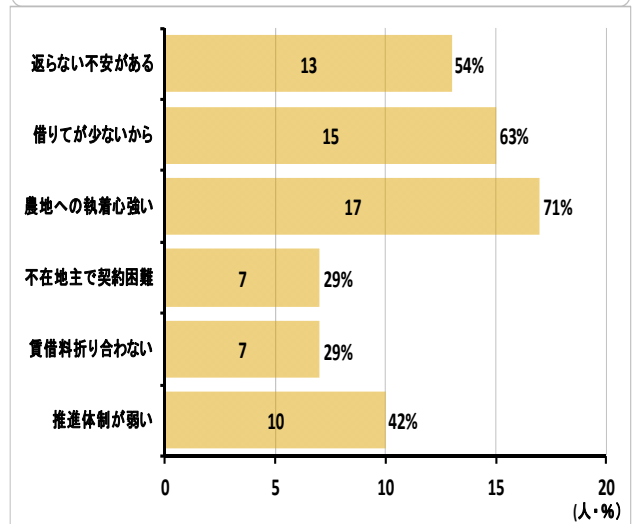
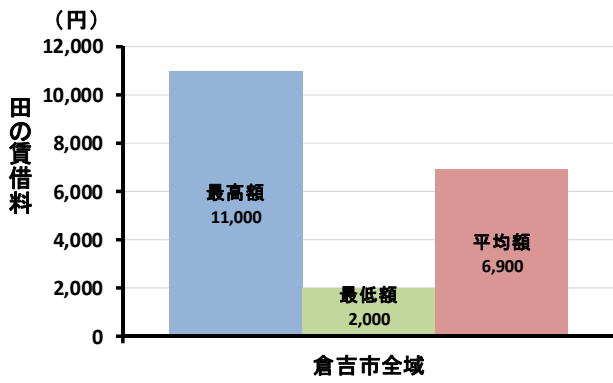


図15 農地賃借料の状況
～賃借料は低下傾向～



資料：農業委員会調べ

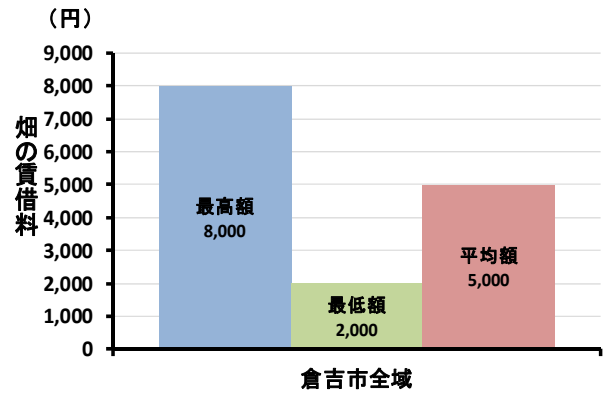
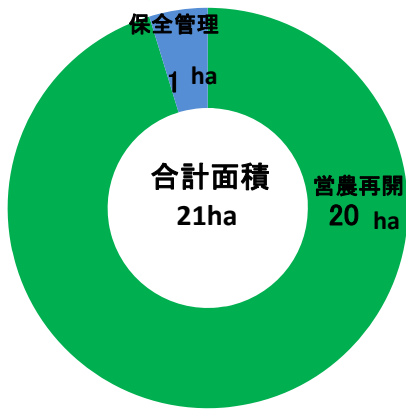
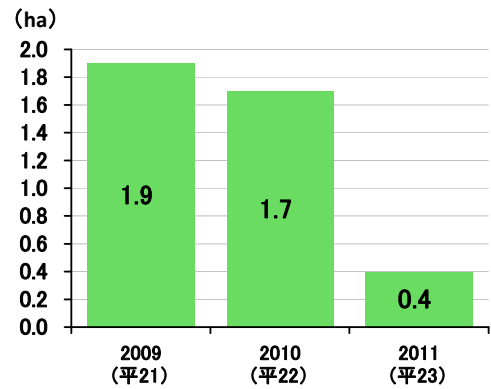


図16 遊休農地解消後の利用状況
～解消面積の95%で営農再開～



資料：耕作放棄地全体調査結果による

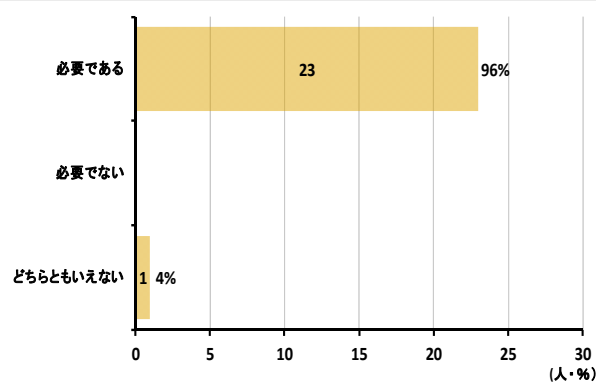
図17 解消事業の実施状況
～平成23年度は大幅に減少～



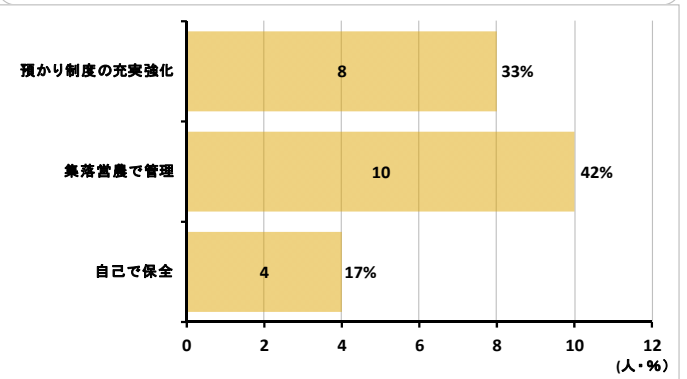
資料：県経営支援課調べ

農業委員アンケート結果

【質問10】 標準小作料が廃止になって現行の農地賃借料情報となりました。賃借料情報の提供は必要ですか。1つ選んで○をつけて下さい。



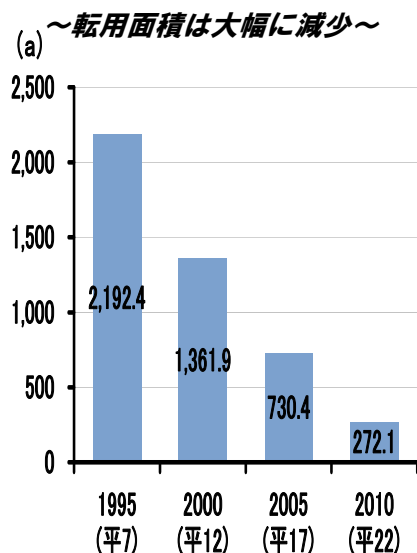
【質問12】 貸し手・借り手のミスマッチなどにより遊休化寸前の農地が相当潜在していると見られています。農地保全対策はどうあるべきでしょうか。1つ選んで○をつけて下さい。



⑥ 農地転用の状況

図18-1 農地転用面積の推移

【平7～22】



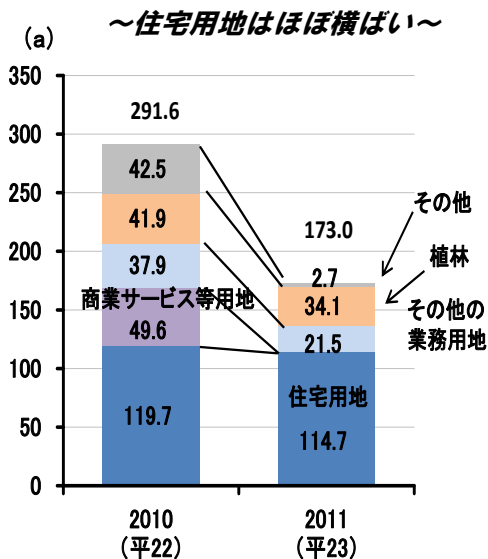
資料：農林水産省

1995「土地管理情報収集分析調査」

2010「農地権利移動等調査」

図18-2 農地転用面積の内訳

【平22：23】

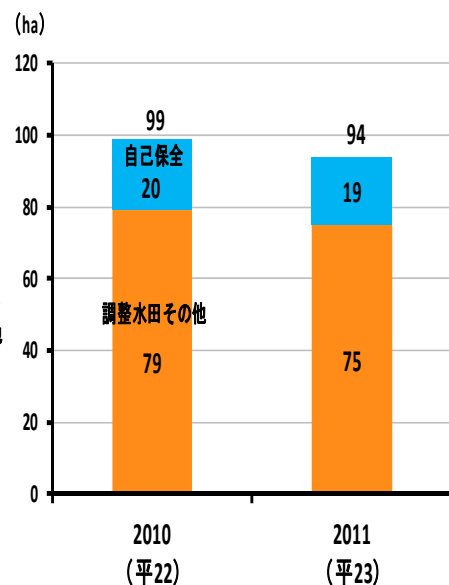


資料：農業会議調べ(農業会議答申のみ)

(注) 許可不要事案「公共的施設用地」はデータ公開が間に合わないため入っていない。

図19 水張り水田(保全)の状況

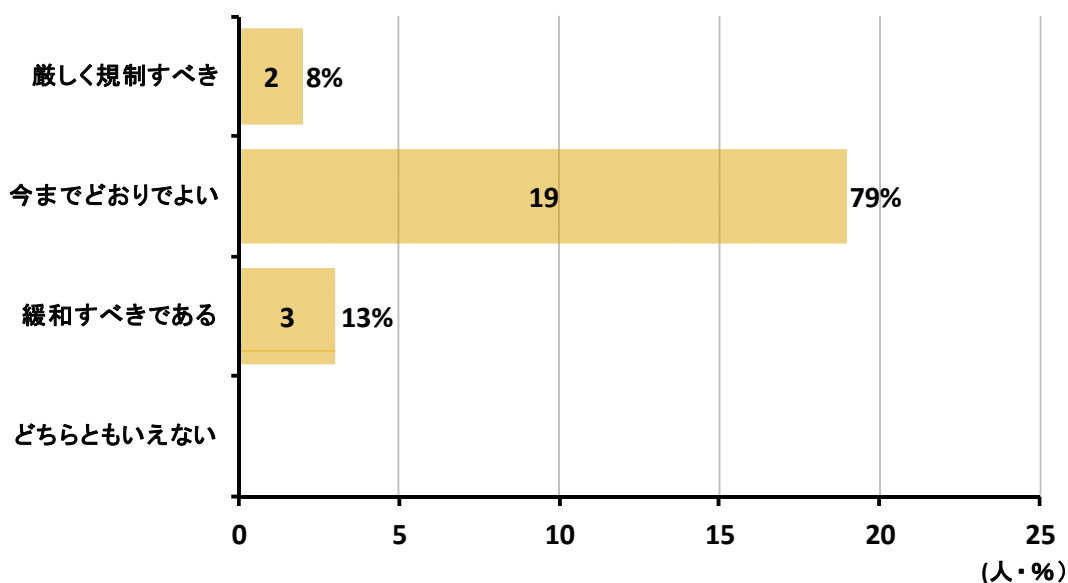
～前年とほぼ同じで慢性化～



資料：県生産振興課調べ

農業委員アンケート結果

【質問11】 農地転用の実態についてどう思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



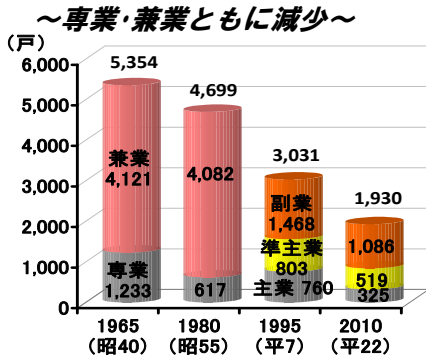
第3部
労働編

農業就労(人)の姿

～農業者の高齢化・世代交代を踏まえた労働力総量の確保～

① 農業就業者の状況

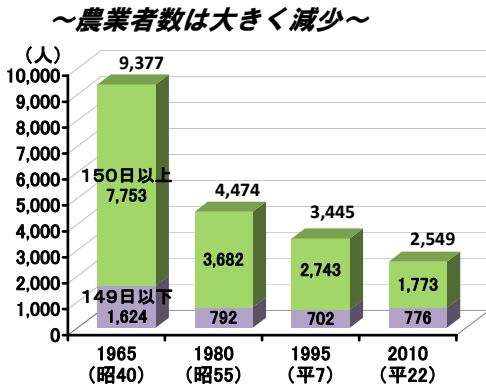
図20 類型別農家の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

(注) 昭55以前は旧定義の農家、
平2以降は新定義の農家

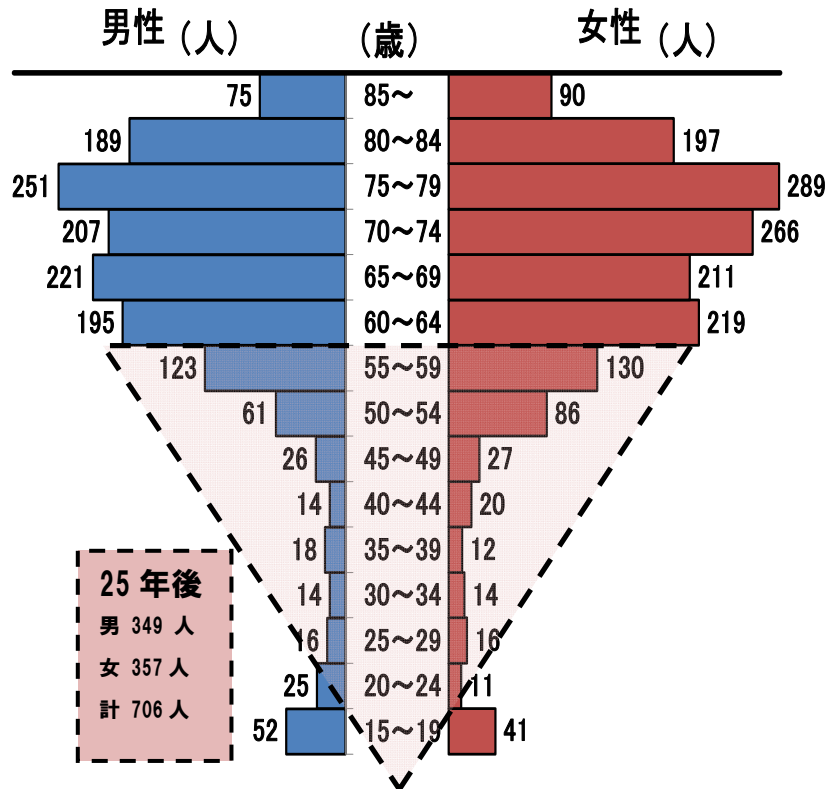
図21 基幹的農業従事者数の推移
(年間150日以上に従事者)



資料：農林水産省「農林業センサス」

図22 農業者の男女別年齢別構成割合

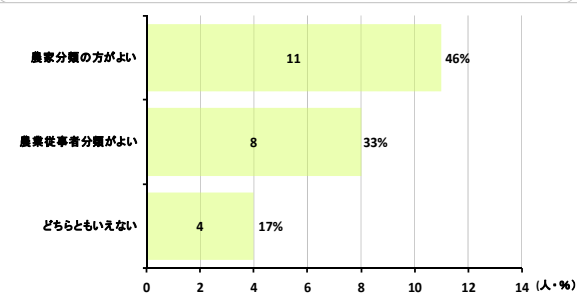
～65歳以上は64%
以前として高齢者に依存～



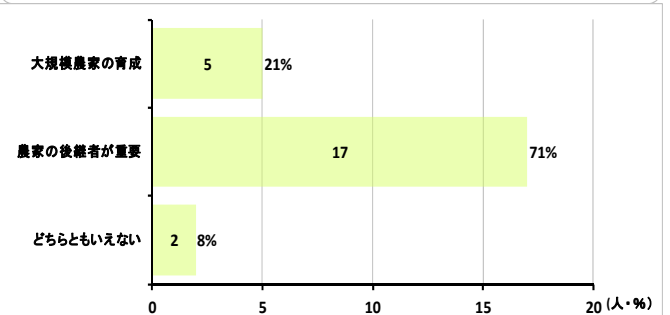
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

農業委員アンケート結果

【質問13】農林業センサスでは、家族経営の家を単位とする農家分類(主業・準主業・副業別)と農業従事日数(基幹的従事者150日以上)の人を単位とした従事分類がされていますが、農業問題を考える場合、どちらを重点に考えるのがよいと思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



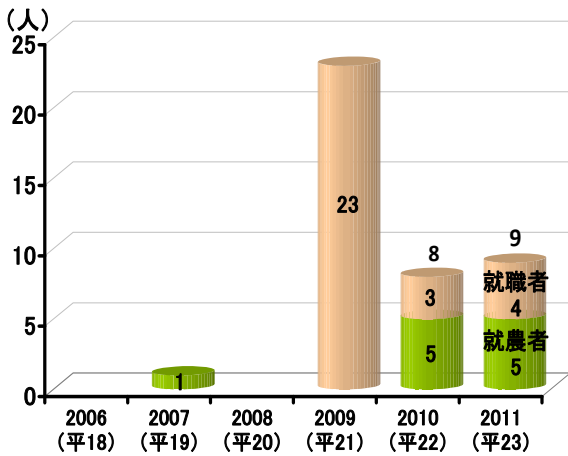
【質問14】いま、大きな世代交代期を迎えています。継続的に農業が経営できるような担い手対策はどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



② 就農の状況

図23 新規就農者の推移

～就農者は増加傾向だが～



資料：県経営支援課調べ

図25 農業法人等の推移

～集落営農型の法人が増加～

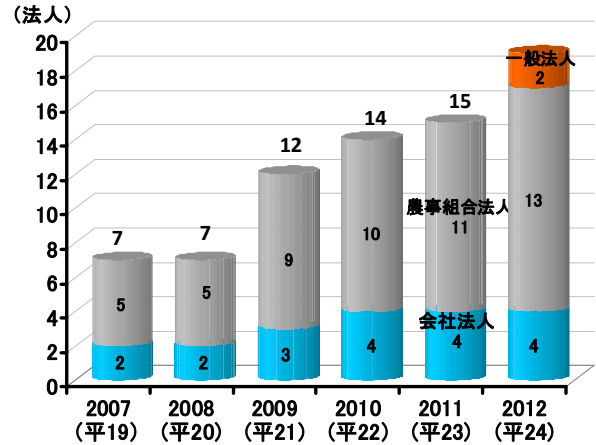
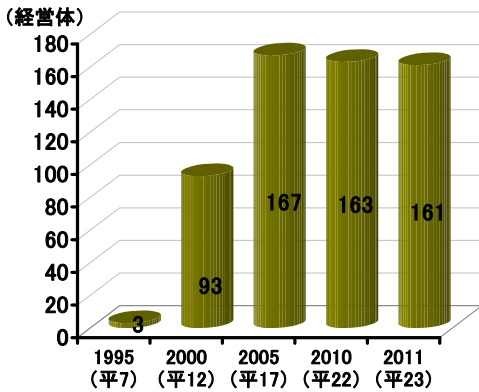
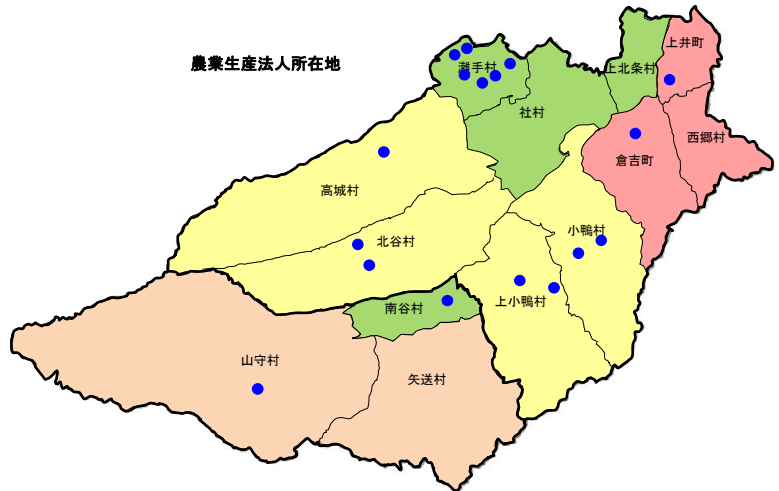


図24 認定農業者の推移

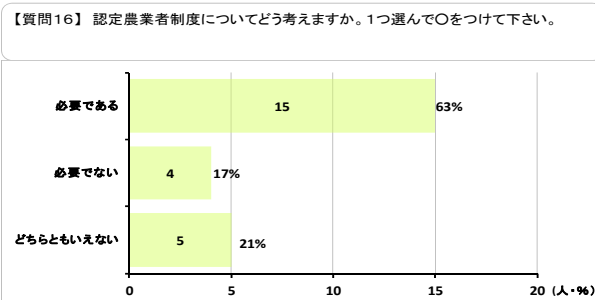
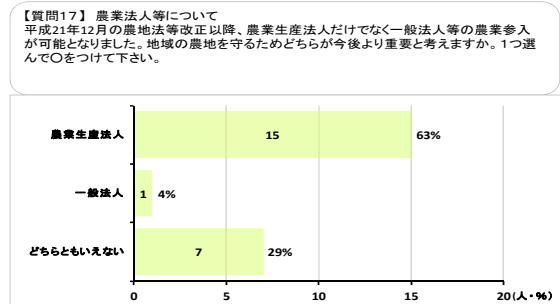
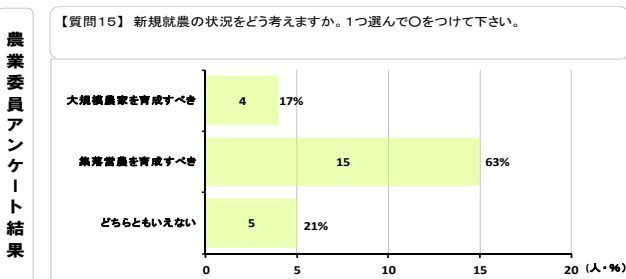
～近年は横ばい傾向～



資料：県経営支援課調べ
農業委員会調べ



資料：県経営支援課調べ
農業委員会調べ



第4部 組織編

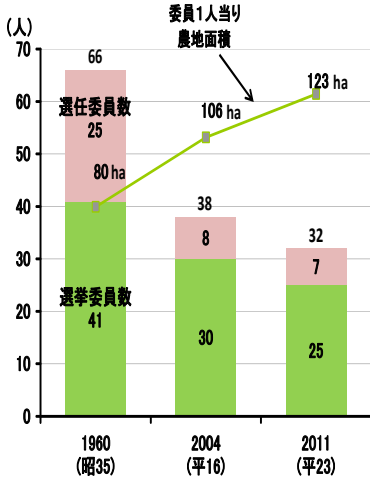
関係機関・団体の役割分担

～広域化のなかでの関係機関・団体の連携強化～

① 農業委員会の状況

図26 農業委員数の推移

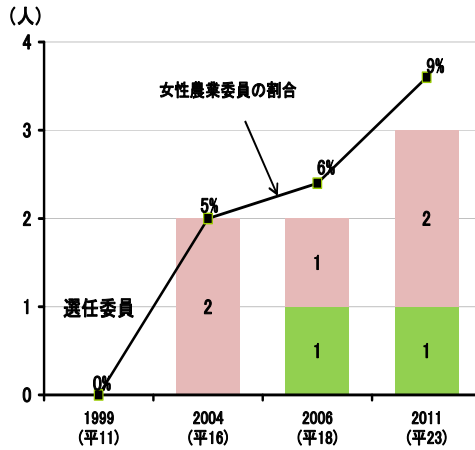
～市町村合併により1/2に減少～



資料：農林水産省「耕地面積調査」
農業会議調べ

図27 女性農業委員数と割合の推移

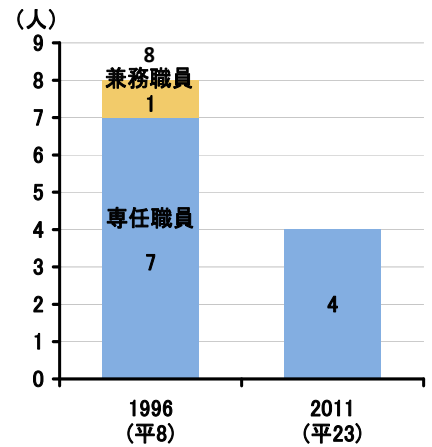
～女性委員は全体の10%以下～



資料：農業会議調べ

図28 事務局職員数の推移

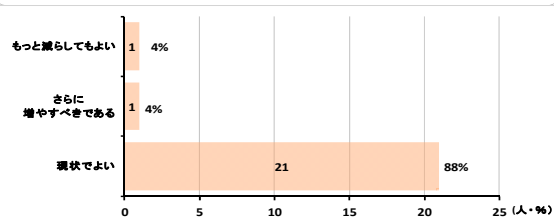
～市町村合併により半減～



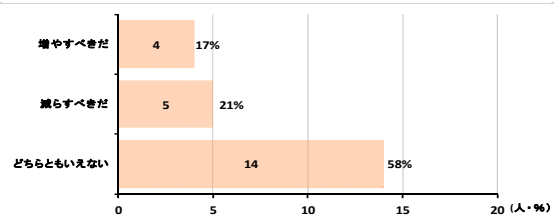
資料：農業会議調べ

農業委員アンケート結果

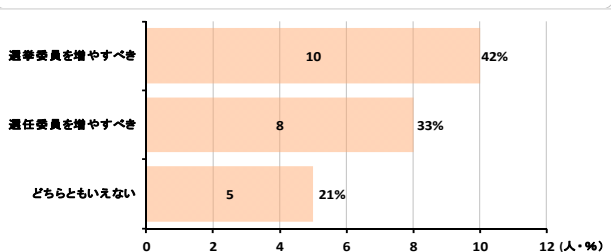
【質問18】市町村合併に伴い農業委員は減少しています。この状況をどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。(選挙委員について)



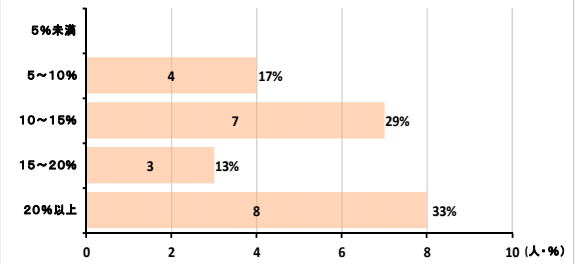
(選任委員の増減について)



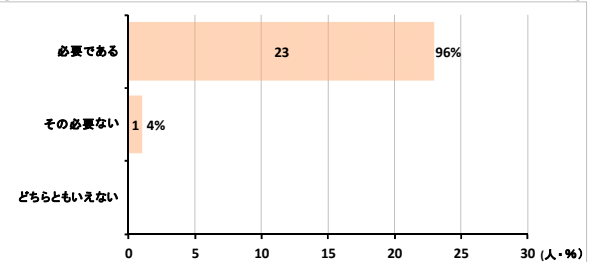
【質問19】女性農業委員の割合が問われています。どのように考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問20】あなたの市町村では女性委員の割合を、当面どれくらいを目指すべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。

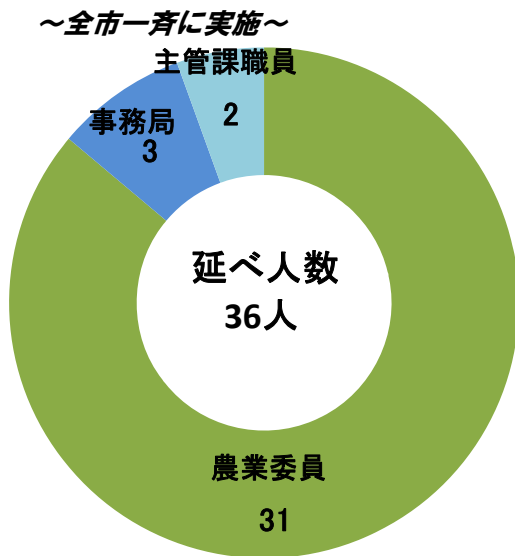


【質問21】事務局は事務増加への対応と法律・規則に関する専門知識が求められています。かつての農地主事のように専門的な職員を配置することについてどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



② 関係機関等との連携

図29 平成24年度農地パトロールの農業委員等実施人数



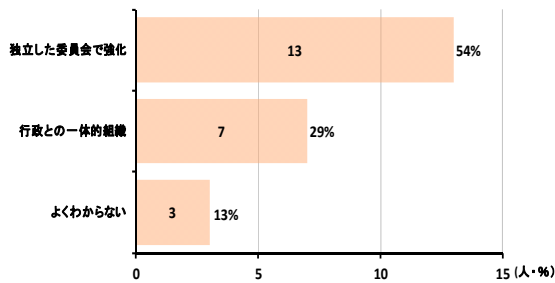
資料：農業委員会調べ

～管内における主な関係機関・団体～

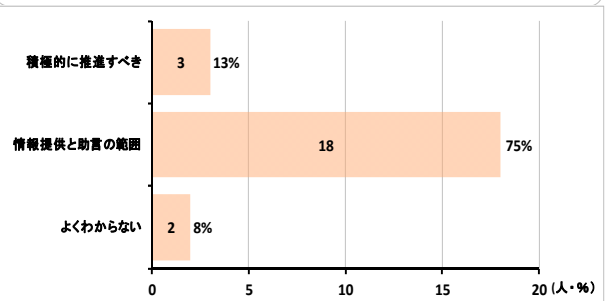
- ・ 農事組合（244）
- ・ JA（5支所、1営農センター）
- ・ 農業共済組合（1）
- ・ 土地改良区（16）
- ・ 農地利用集積円滑化団体（1）
- ・ 市町村行政部局
- ・ 県農林部局
- ・ 法務局

農業委員アンケート結果

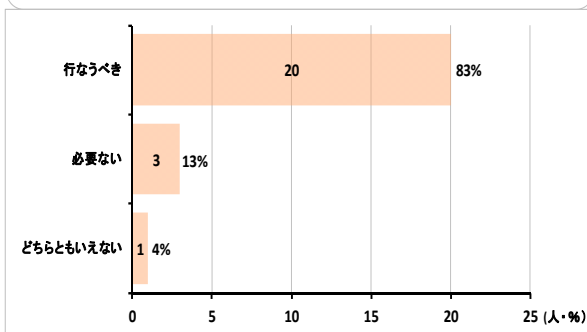
【質問22】いま農業委員会等組織のあり方が問われています。どうあるべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



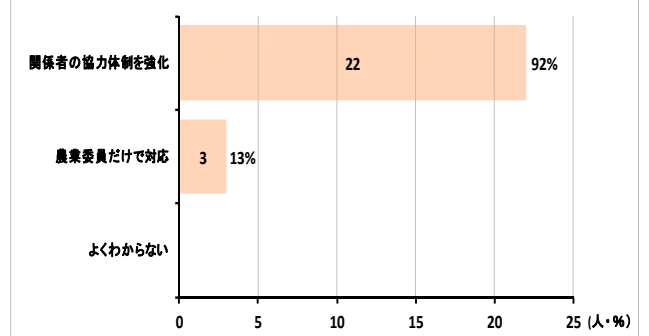
【質問24】「人・農地プラン」作成への積極的な推進と情報提供等の支援・協力が農業委員会に求められています。どこまでの取り組みが可能と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問23】農業委員会が毎年、戸別に行なう農業委員会委員選挙人名簿の登載申請書の提出の機会を活用し、農地の規模拡大・縮小などの「農家経営意向調査（農地貸借等調査）」を行うことについてどう思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問25】農地パトロール実施（強化月間活動、日常監視活動）について、農業委員以外の協力を求める推進体制について、関係者の協力体制を整備すべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



第5部 特集編

農業委員会系統組織活動の実績

～農政・建議・プロジェクト等の活動強化と情報公開～

1 市町村農業委員会の主な建議事項

「農業委員会等に関する法律」第6条第3項の規定に基づき、平成24年10月11日石田耕太郎倉吉市長へ「平成24年度倉吉市農業施策に関する建議書」を提出しました。

建議の概要は次のとおりです。

1 地域農業の確立に向けた担い手農地対策について

- (1) 担い手の確保・育成
- (2) 集落営農の推進
- (3) 認定農業者以外の利用権設定に対する支援
- (4) 農業用生産資材の価格高騰に対する支援
- (5) 不在地主の農地に対する支援
- (6) 農業用施設維持管理に対する支援

2 食の安全・安心対策について

- (1) 地産地消の推進
- (2) 食農教育の推進

3 有害鳥獣対策について

- (1) 駆除頭数や期間の拡大
- (2) 焼却施設や埋設地の整備を含めて駆除体制の強化
- (3) 電気柵等の設置の拡充等の支援

4 農業委員会組織体制の強化・充実について

- (1) 農業委員会予算の確保と事務局体制の整備
- (2) 女性農業委員の活動支援



2 プロジェクト活動等の概要

農業委員会では毎年1回、農地が適正かつ効率的な耕作がされているか、農地パトロールによる利用状況調査を実施しています。



出発式及びパトロール風景



遊休農地解消対策事業助成金

遊休農地を再生するための経費の一部を助成することにより、遊休農地の解消を図り、地域農業の振興に寄与することを目的に交付しています。

- ・10a 当たりの助成金額 1万円から3万円の範囲内

第5部
特集編

農業委員会系統組織活動の実績

～農政・建議・プロジェクト等の活動強化と情報公開～

1 農政活動トピックス

★「食料・農業・農村の基本政策確立に向けた予算確保と具体的施策に関する提案」

(平成24年12月6日開催の平成24年度全国農業委員会会長代表者集会提案決議)

1 農地の有効利用対策の強化

- (1) 農地情報の整備・管理対策の強化
- (2) 農地の利用集積を加速するための環境整備
 - ① 「人・農地プラン」における認定農業者の位置づけ
 - ② 農業委員会による農地の利用集積と遊休農地に関する取り組みの体系化
 - ③ 農地利用集積円滑化団体による農地の保全
 - ④ 農地集積対策への支援強化
 - ⑤ 都道府県域における農地の面的集積促進の支援
- (3) 遊休農地の発生防止・解消対策の強化
 - ① 遊休農地の再生利用に向けた支援
 - ② 「農地トラスト制度(仮称)」の創設
 - ③ 「予備農地(仮称)」の考え方の導入と管理等への政策的な支援
 - ④ 非農地とした土地の管理・保全に向けた措置
- (4) 都市農地の活用の推進

2 担い手・経営対策の強化

- (1) 認定農業者等の経営改善支援
- (2) 農業者戸別所得補償制度の機能強化等
- (3) 土地利用型農業経営の体質強化
- (4) 農業者年金制度の積極的な推進

3 新規就農・人材育成対策の強化

- (1) 新規就農者の確保対策の強化
- (2) 農業の雇用改善

4 地域振興対策の強化

- (1) 都市計画制度等の見直しにおける都市農地の保全
- (2) 中山間地域対策など地域を支え守る施策の強化
- (3) 鳥獣被害対策の強化
- (4) 基盤整備の促進
- (5) 地域の農業者が主体となった6次産業化の推進
- (6) 再生可能エネルギーの利用推進

5 大震災・原発事故への万全な対応

- (1) 震災復旧・復興対策の迅速化と十分な対応
- (2) 東京電力福島第一原子力発電所事故への万全な対応

6 消費税・相続税への慎重な対応

7 農業委員会組織体制と機能の強化

用語解説

図2

「農業就業人口」

農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数の方が多い世帯員

「基幹的農業従事者数」

農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事が主」の者

図3

「農業の多面的機能」

農産物以外に、生産活動によって社会に役立つ有形・無形の価値が生み出されるもの。

環境保全機能や安らぎ機能、社会文化的機能、経済維持機能など。

$$\text{「洪水防止機能評価額」} = \frac{\text{全国洪水防止機能評価額}}{\text{全国田畑面積}} \times (\text{73万円/ha}) \times \text{市町村田畑面積}$$

$$\text{「利水安定機能評価額」} = \frac{\text{①}}{\text{全国水稲面積}} \times (\text{90.3万円/ha}) \times \text{市町村水稲面積}$$

※① = (河川流況安定機能 + 地下水かん養 + 土砂崩壊防止 + 気候緩和 + 土壌浸食防止)

「農業の多面的機能の評価方法（全国）」

機能		評価方法
洪水防止		田畑の貯水能力を評価
水 土 里 安 定	河川流況安定	水田灌漑用水の還元能力
	地下水かん養	水田地下水かん養量を評価
	土砂崩壊防止	土砂崩壊の水田抑止力
	気候緩和	水田気温低下効果(-1, 3℃)
	土壌浸食防止	農地耕作の土壌浸食防止
保 健	有機廃棄処理	下水汚泥等の農地還元分
	保健・休養	農村地域への旅行支出額

図4

「耕作放棄地」

この数年の間に再び耕作する考えのない農地（農林業センサス用語）

「遊休農地」

耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地（農地法）

図6

- ① **遊休農地の割合** = $\frac{\text{耕作放棄地面積}}{\text{経営耕地面積} + \text{耕作放棄地面積}}$
*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ② **鳥獣被害額** (100ha 当たり) = $\frac{\text{鳥獣被害額}}{\text{耕地面積}}$
*鳥取県農林水産部調べ「鳥獣被害状況」
- ③ **土地生産性** (10ha 当たり) = $\frac{\text{農業所得}}{\text{耕地面積}}$
*農林水産省「生産農業所得統計」
- ④ **農業従事者高齢者率** = $\frac{\text{65歳以上}}{\text{農業就業人口}}$
*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑤ **副業的農家率** = $\frac{\text{副業的農家数}}{\text{販売農家数}}$
*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑥ **土地持ち非農家率** = $\frac{\text{土地持ち非農家数}}{\text{総農家数} + \text{土地持ち非農家数}}$
*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑦ **水田未整備率** = $\frac{\text{30a以上区画未整備水田面積}}{\text{水田面積}}$
*農林水産省「農業基盤情報基礎調査報告書」
- ⑧ **山間農業集落** = $\frac{\text{山間農業地域集落数}}{\text{集落数}}$
*農林水産省「2005 農林業センサス」

図7

「農業地域類型」

短期の社会経済変動に対して、比較的安定している土地利用指標を中心とした基準指標によって市町村及び市区町村（昭和25年2月時点の市町村）を類型化したもの

図 1 1

「農業振興地域」

農振法に基づく市町村の農業振興整備計画でマスタープランに定められた優良農地を確保するための地域。

図 1 4

「農地流動化」

土地の農業上の効率的利用をはかるため、その利用関係を調整すること。農用地利用増進事業(75年)を体系化・統合化されて80年には農地利用増進法が制定された。さらに93年には効率的かつ安定的な農業経営を育成するための農業経営基盤強化促進法が制定された。

図 2 0

「販売農家、自給的農家」

販売農家は、経営耕地面積が10a以上又は農産物販売金額が年間50万円以上の農家

自給的農家は経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

「主業、準主業、副業的農家」

・主業農家 農業所得が主(総所得の50%以上)・年間60日以上農業従事(65歳未満)

・準主業農家 農外所得が主・従事者は(主業農家と同じ)

・副業的農家 主業、準主業農家以外の農家

「専業農家、兼業農家」

・専業農家 世帯員のなかに兼業従事者が1人もいない農家

・兼業農家 【1種】兼業従事者が1人以上おり、かつ農業所得の方が多い農家

【2種】兼業従事者は(同上)、かつ兼業所得の方が多い農家

図 2 4

「認定農業者」

農業経営の目標等の計画(経営改善計画)を作成し市町村長の認定を受けたもの

図 2 5

「農業生産法人」

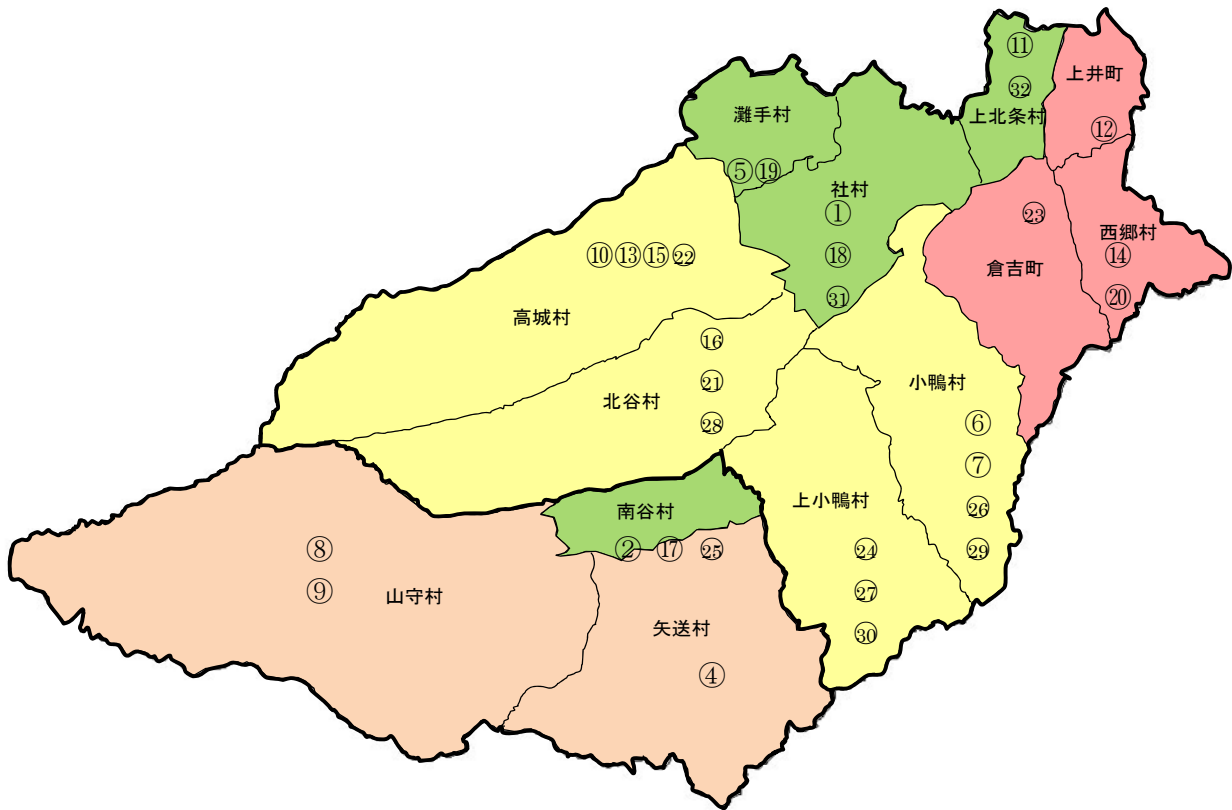
農地法で規定する農地を利用して農業経営を行なう法人。農事組合法人、持分会社(合名、合資、合同会社)、株式会社(株式譲渡制限会社に限る)の5形態。事業や構成員、役員についても一定の要件が農地法で定められている。

図 2 6

「農業委員定数」

市町村の裁量の拡大と業務運営等の効率化等を促進するため、必置基準面積の見直し、選挙委員の下限定数を条例に委任する措置が講じられている。

農業委員名簿



番号	選挙・選任別	氏名	備考	番号	選挙・選任別	氏名	備考
1	選挙	岸本 岩男	国分寺・秋喜・秋喜西町・福光・横田・黒見	17	選任	藤井 由美子	大鳥居
2	選挙	山崎 重三	安歩	18	選挙	浅井 稔洋	上神・寺谷・大谷茶屋・和田・和田東町・不入岡
3	選挙	山脇 優	市内全域	19	選挙	美田 俊一	釜・谷・津原・別所(穴田・半坂)
4	選挙	鐵本 達夫	関金宿・郡家・山口	20	選任	山口 博敬	上余戸・栗尾・大原・広栄町・虹ヶ丘町
5	選挙	伊藤 源蔵	北面・穴沢・尾原・別所	21	選任	藤井 詔子	尾田・志津
6	選挙	數馬 豊	富海・下大江・東鴨・東鴨新町・長坂町・長坂新町	22	選挙	金信 正明	福積・岡・大立・上大立・般若・棕波・立見
7	選挙	水谷 榮之進	生田・北野・丸山町・西倉吉町・福守町・鴨川町	23	選挙	黒川 衛	上灘・成徳・明倫
8	選挙	影山 卓司	今西・堀	24	選挙	山根 清人	上古川・福山・広瀬・石塚
9	選挙	毛利 紀久子	明高・福庭・小泉・米富・野添	25	選挙	日野 一良	泰久寺・松河原
10	選任	石井 康臣	下米積	26	選挙	森 敏弘	小鴨・中河原
11	選挙	西谷 美智雄	古川沢・小田	27	選任	太田 光紘	蔵内
12	選挙	福井 章人	清谷・福場・上井～河北町	28	選挙	松本 幸男	三江・福本・福富・沢谷・杉野
13	選挙	坂本 襄	今在家・服部・桜・河来見	29	選任	林 修二	大宮・岩倉・菅原
14	選挙	杉本 訓志	山根・伊木・八屋・下余戸	30	選挙	谷本 貴美雄	鴨河内・耳
15	選任	中野 隆	上米積・下福田・上福田	31	選挙	村本 英人	国府・大谷・西福守町・馬場町
16	選挙	笠見 猛	梓谷・中野・長谷・森・大河内	32	選挙	徳田 和幸	穴窪・大塚・中江・新田・井手畑・下古川

倉吉市の概要

市章（昭和 29 年 3 月 29 日）



クとラと吉を組み合わせてまとめたもの。

円形を型どるは円満なる融和を示し、市民の強固なる団結を表現、また中央の突起せるは将来倉吉市の伸びゆくかんとするを表徴する。

市民憲章（昭和 43 年 9 月 21 日）

わたしたち倉吉市民は、郷土の繁栄を願い、明るく美しい市風をつくりあげるため、ここに憲章を制定します。

みんなで手をつなぎ、からだづくりにつとめ、自然と文化を愛し、きれいなまちをつくり、楽しい職場をきずき、伸びゆく倉吉市民としてのほこりにいきましょう。

市の木 つばき（昭和 48 年 10 月 24 日）



市の花 つつじ（昭和 43 年 9 月 21 日）



市の鳥 メジロ（平成 20 年 10 月 2 日）



市のイメージキャラクター「くらすけくん」



住所 倉吉市葵町 722
性別 ♂(オス)
犬種 ビーグル
誕生日 12月5日
好きな食べ物
倉吉の特産品、土産物(3色だんご等)が大好き

【倉吉市農業委員会】

住所 〒 682-8611

鳥取県倉吉市東町 435-1 倉吉市役所北庁舎 3階

電話 0858-22-8171

FAX 0858-23-9100

E-mail noui@city.kurayoshi.lg.jp

倉吉市ホームページ <http://www.city.kurayoshi.lg.jp/>